第二章

ジャワイスラム神秘主義を考える上での南海冥府の女王の神話

第一節　ジャワ人ムスリムの神秘主義の象徴としての霊界への観点と南海冥府の女王の位置

〈44〉各種の祈願祭や祝宴を行う際に、ジャワ人ムスリムはあらかじめ定められた料理を提供すのが一般的である。普通、提供される料理は、上記の伝統儀式の祈願祭や祝宴の開催に関係した意図となるものの霊的象徴から成り立っている。これらは神のもとによじ登る意図と祈りを表した乗り物として祈願祭の場所となるのである。この偶像破壊主義者の文化とはいえ、ジャワ人ムスリムはこれを多神教の道具として考えていない。それゆえに、多神教としてイスラムで呼ばれるものは何でも避けるために、伝統儀式の祈願祭や祝宴にはイスラム式の祈祷と読誦という枠をはめている。伝統儀式を実行する前に主催者はこの儀式の進行を依頼された人に、この儀式を行う目的を説明(ujub)するのである。

これ以外に、各種の料理の形をとった自然を実現した象徴は、ジャワ人たちは預言者やアッラーの伝道者として理解されているアッラーが称賛する人物を賛美することで仲介の道具として意図されている。例えば下に述べる結婚の祈願祭でみられるのである。(Kitab Lukmanakim Adammakna, 1977:81-82)

No.	祈願祭の供物	祀られる対象
1.	Apem, ketan, kolak[1]	先祖の霊
2.	Tumpeng nasi putihm、野菜、卵	平穏の申請
3.	Nasi golong lulut[2], 土台をおいて卵焼きで閉める	四つの欲望でアッラーのしもべとしての自分
4.	Nasi kebuli[3], 鶏卵,赤玉ねぎの揚げたもの,揚げ魚,コーヒー粉。	Syaikh ‘Abd al-Qadir al Jailani
5.	Ketan Salak[4]	Kanjeng Pangeran Senapati[5]
6.	鶏などの内臓と線香など	輝きの守護天使
7.	Ketan slak と味付きゆで卵	Kanjeng Sultan Agung
8.	Kolak kencana[6]	Kanjeng Ratu Kidul (南海冥府の女王)
9.	Ketan punar[7], enten-enten, 土台をおいて卵焼きで閉める	Ki Ageng Bdho

1 (訳) 章末の写真参照
2 (訳) 章末の写真参照
3 (訳) 章末の写真参照
4 (訳) 章末の写真参照
5 (訳) 現在のマタラム王家の初代の王
6 (訳) 章末の写真参照
7 (訳) 章末の写真参照

10.	Dawet[8]	Sang Hyang Antaboga[9]
11.	Rujak degan[10]	健康祈願
12.	Ketan mancawarna（赤緑などに着色したおこわ）	神の恩恵が十分であるようにと
13.	揚げたサンタンを入れたNasi kering[11]とopak[12]	四大元素のうちの空気
14.	肉か魚と空芯菜の料理 Sayur padhamara (pada mara)	常に仲良くイスラ願うムの戒律を守れるようにアッラーに求める
15.	Tumpeng robyong[13]	常に安全と籠をアッラーに求める
16.	Nasi punar[14]	Ijab Qabul 結婚式の後に行われる祈願祭と子孫の安全を求める
17.	Jenang pliringan（あかいjenangの周りを白いjenang で囲んだもの）、Jenang palang（赤いjenang の上に白い jenang を置いたもの), jenang sungsum[15]	カリフ Abu Bakar, Umar, Utsumanと'Aliを称賛する

上表は、ジャワ人ムスリムにとって提供する各種食材は目的や道具ではない、例を与えたものである。物質化した意図と祈祷の象徴だけである。地域ごとに伝統や風習が異なるのでインドネシア全土では同じではないことは当然である。とはいえ、これらすべての行為の真髄は、アッラーに対して好意や便益、安全を与えてもらえるようにする祈りであり、したがって上記の行為がイスラム改変者、背教者のカテゴリーに含まれることをこれから直ちに述べることはできないのである。

なぜなら、宗教は宗教上の戒律の点を最優先とする以外に、その宗教で神秘主義の形をとった信仰あるいは根本的な点である重要なことを最優先するからである。<46>特定の神秘主義に関する件は、見かけのシンボルの形でその形態を具現化する必要があるほかの人の本を読んで理解してほしい。これこそが預言者に教えられジャワ人ムスリムに守られてきた祝宴と祈願祭なのである。

上記の表の例によると、ジャワ人にとって南海冥府の女王は、聖人とされたアッラーの代理人たちの聖霊と同じ地位を占めているとみられる。ジャワ人にとって、南海冥府の女王は、信者としての自分自身と神とをつなぐ関係を構築できる存在

8（訳）章末の写真参照
9（訳）章末の写真参照
10（訳）章末の写真参照
11（訳）章末の写真参照
12（訳）章末の写真参照
13（訳）第一章の写真参照
14（訳）章末の写真参照
15（訳）章末の写真参照

となっている。それゆえ、祝宴と祈願祭では南海冥府の女王の健在を、神の前でその存在を代弁する一つ象徴の形式で、具現化する必要があると考えられているのである。

ジャワ人ムスリム社会によるとはいえ、南海冥府の女王の霊はジャワ社会でSuro (Muharram)の月にお祀りする理由になっている。後の章で述べるいろいろな解説の内容を見ると、ジャワ人ムスリムの一部によって南海冥府の女王は、いろいろな仕事を調整したりおわらせたりするという使命を果たすうえで、アッラーが地上に下した天使と同列な聖霊の一つであると理解されている。この理解は、クルアンのAl-Qadr章の97/3節[16]にあることを意味しているように、一般的にLailatul qadar意味を土台にしている。

ジャワ人ムスリム社会で Suro の月にお祝いされる理由の色々な資料を下記に示す。

1. 宗教理論的にMuharramの月は神によって尊ばれる月の一つである。
2. 預言者ムハンマドによって、Muharram は預言者たちの月と呼ばれ、預言者はこの月、特に 10 日とその前後の日を尊んでおり、そこで預言者は断食の行を行い、寄付金をより多くすることで孤児院を援助することを提案している。
3. 半歴史的な見地から、Muharram 月の 10 日は、ノアの時代における激しい洪水と大風があった後の新しい世界にとっての最初の日の記念日を構成している。Muharram 月の 8 日にノアの箱舟がトルコのアララト山の Judi の丘に流れ着いた。Muharram 月の 10 日に、助かったノアとその同行者は船を下り、新しい世界での生活を始めたのであった。Judi の丘それ自身の意味は人類が住み始めたばかりの丘ということである。
4. Muharramの月の一日は預言者ムハンマドがメッカからマディナへのヒジュラの最初の日である。たしかに預言者はその二か月後にはじめてヒジュラを行った。夜間移動を行った約 12 日後のイスラム歴元年の Rabi'ul の月の 12 日に預言者は初めてマディナに入ったと記録されている。従前からの親友の使節団の

[16] (訳) みいつの夜は、千月よりも優る。

みならず、最初からマディナとその付近の住民たちとネットワークを作っていた。預言者のいとこたちも少しずつヒジュラに動き始めるように命令された。Utsman, Hamzah, Zaid が、Muharram 月の一日の晩に出発するように預言者に命令されたと記録されている。

5. Muharram 月は Sultan Agung の創意でイスラムとジャワ歴を一緒にした正月である。ジャワ社会では、Muharram の月はジャワに Aji Saka[17]がやってきて、Aji Saka より前の年代の人たちを支配していた巨大生物の遠足からジャワを解放したという月であると信じられている。これ以外に、この月はジャワ文字が生まれた月でもあると信じられている。この現象に対して、この巨人に似ている Dewatacengkar (Dhewata Cangkara)とは実際に誰であったのかあるいはどんな生物であったのかという追跡調査が必要である。彼はアダム以前の人類もどきの生物の生き残りであったのであろうか？〈48〉

6. インドネシアの南側の島々では、南海の女王として知られている南海の支配者(女王)と Muharram の月の聖なる関係についての信仰がある。

7. Muharram 月の 10 日、Asuro は、カリフの Yazid bin Mu'awiyah の命令できわめて非人道的な方法で Sayyidina Husein を抹殺したことに象徴されるムハンマドの子孫とその同調者の 72 名の虐殺というイスラムの歴史の中でイスラム社会を大変混乱させた事件が起こった日である。この事件は、まずは Abu Sufyan の子孫の支持によるイスラムの政治グループによって、預言者ムハンマドの子孫を撲滅するための一連の殺人の実行の緒端となったのである。

上記の要素以外に、諸原因は、Muharram の月 10 日(Asuro)とその月を祝わなくてならないと彼らが感じたいろいろな要素があった社会と個人の骨の髄まで確実にしみ込んでいた祈願祭をさらに生み出すことを伴う伝統儀式と霊的な儀式なのであった。なぜならば、この確信は最終的に神への信仰と帰依に流れだし、明らかに、それが間違いであると決められないような宗教的表現になった。そのじつ、ジャワ神秘主義の概念の一つで Suro の月の一日の記念祈願祭が南海冥府の女王(Kanjeng Ratu Kidul)とかれらを精神的な意味で結びつける一つの伝統儀式に

[17] (訳) Aji Saka はジャワに文明をもたらし文字を伝えた伝説上のジャワの初代の王。

なったのである。

第二節　幽界内における南海冥府の女王

多数の kejawen[18]の専門家たちは、この世界と似たもの、はっきり言うと人類が住んでいる世界を含めて七種類の世界があるという統一見解を有している。

この世界はいろいろな生物に占められている七つの命の流れを有している。上記の七つの世界の生物は原則的にそれぞれの世界を取り扱っていて、彼らの行為は各々の仕事を有する各々の世界と交わることはない。〈49〉この七つの世界の中で太陽と人類と動物など肉体を持つものから構成される住人がいるのは人類の世界だけである。

他の六つの世界の住人は光からできている身体をもつか見えない幽体という生物としてよく知られているものである。この六つの世界では太陽がないので明るい昼間は存在しない。存在するのは月光と明るい星の光の下の晴れた夜のような状況であるがゆえに。太陽のようなまぶしい輝きは存在しない。

この住人たちの系譜によると、霊体には二種類がある。すなわち霊体として最初から創造されたもの。二つ目は死んだ人の霊からできたものである。人類と同じように、いいものと悪いもの、賢いものと愚かなものが存在する。普通、彼らは生活でしばしば霊力を使うか、あるいはその人生で神に向かって魂を進めようとしないものもある。

もともと霊体として創造されたものは各々の世界に住んでいる。彼らは社会を構成しているゆえに、王や妃、大臣などの高位の地位に存在する霊体がいる。その反対に兵隊や使用人、労務者などの低位の地位に存在するものもいる。

いくつかの世界から構成されている霊界での生命体の重要なものを次に示す。

1．Merkayangan

---

18 (訳)クジゥエン:ジャワの大乗仏教・ヒンドゥー教的考えに基づいた伝統的風習。多くの風習が日本のそれと似ている。

この世界での生命体は、太陽のような明るい輝きがないだけで、人間世界の生命体と大体同じである。Merkayangan の世界で、彼らは人間世界との同じようにタバコを吸い、同じようにお金を払い、道路にあるのと同じたくさんの自動車があり、全く人間世界のようにたくさんの工場もある。不思議なのは、彼らが人類より進んだ技術を持っており、より近代的な都市には摩天楼がそびえたち、航空機は超現代的な点などである。〈50〉

このMerkayanganの世界で神秘的な状況もあり、必要な時には彼らに招待されて、たとえば wayang kulit (影絵芝居)を上演したり、協会の儀式に出席したり batik(ジャワ更紗)や紙巻きたばこを作ったりする人間もいる。この世界で働いた人間は、我々の世界の通貨のようにこの世界で通用する正式な通貨で賃金が払われるのである。

2. Jin-Siluman(水神)

この幽体は、いうまでもなく、湖や海、大洋などの水がある地域に好んで生息する。Siluman の社会は古代社会のように統治されている。彼らには、王、女王、官僚、王国の官吏、助手、奴隷などがいる。彼らは各王宮や一族の各々の家、古い形式の家屋などに住んでいる。

Solo や Yogyakarta や中部ジャワ訪問にでかけると、Parangkusmo を入口に持った南海の宮殿に住む強力できわめて美しい伝説上の女王の Kanjeng Ratu Kidul - Ratu Laut Selatan (南海冥府の女王)などの siluman に関する話を聞くことになるだろう。

この Parangkusmo は Panembahan Senopati と Kanjeng Ratu Kidul が出会った場所として有名であり、この邂逅で Kanjeng Ratu Kidul はすべての Mataram 王と王国を守ると約束したのであった。

この女王には忠実で力のある女性の大臣、Nyai Rara Kidul(南海冥府の姫)がおり、この南海の王国はジャワの南岸に広がっていて王国内のいくつかの地域には知事がいる。古代の国のように南海の王国でもいろいろな儀式や伝統儀式などがあり、かれらも強力な海軍を有している。

民間伝承では Magelang と Semarang の中間にある Ambarawa 市に近いところに位置する Rawa Pening の主で Sarpo Bongso がいる。この Sarpo Bongso は siluman の一族と長いこと住んでいる初代の Siluman である。一方、Kanjeng Ratu Kudul は Siluman ではなく、数世紀前に彼女はジャワの王国の神であり、その大臣の Nyai Rara Kidul は数千年前からの初代 siluman なのである。

左の写真は 2007/2/4 に撮影した Parangkusmo の Love Stone.

Batu Cinta(愛の石)と呼ばれる石は、民間伝承によるとこの場所が Panembahan Senopati と Kanjeng Ratu Kidul が出会った場所といわれている。

3. Kajiman

彼らは貴族のような社会の古い家に住んでいて、他の siluman とは似ているが、彼らは山間地域と高温地域に住んでいる。人は普通かれらを Jim と呼んでいる。

4. Demit

この部族は山間部の緑が濃くて涼しい場所にいて、彼らの家は木と竹で作ら

れた粗末なもので、彼らの体形は人間とほぼ同じであるが人間より小型である。Merkayangan, siluman, kajiman のように整然とした社会とは別に、demit には二つの社会がありその一つは端的に言うと正直で聖で慈愛に富んだ人たちのものである。不完全な霊的存在である。〈52〉

上記の永続的な七つの世界以外に、人間として生きていたときに犯した間違いゆえに悩んでいる悪人の霊が存在する、中間の世界がある。

過ちを犯した人間はかならず自分の犯した過ちのために刑に服し、その刑罰はこの世に生きている間に贖うことも可能であり、あるいはより悪いものは死後の世界でつぐなうのである。他人にぬれぎぬを着せたり、正直でなかったり、prewangan(霊体に自分の体を提供した人)、黒魔術・呪術で他人の病気にさせたり殺したり、通常でない方法を用いてほかの人を好きにさせる惚れ魔術を使ったり人を殺したり、人を侮辱したりする行為を行った人である。

Kejawen で思ったような金持ちになるために呪文を唱えることは石像に対してではなく、あふれ出るほどの物質的な金持ちになるように人間を「好んで助ける」九つの霊に対してである。

この九つの存在に対する祈祷は致命的な過ちであり、この彼らは人間の目にはこう映るのである。(1) Jaran Penoreh - 頭を後ろに向けている馬、(2) Srengara Nyarap - 犬が咬む、(3) Bulus Jimbung - 大きな亀、(4) Kandang Bubrah - 壊れた小屋、(5) Umbel Molor - 垂れた鼻水、(6) Kutuk Lamur - ナマズのような目がよく見えない魚、(7) Gemak Melung - よく啼く鳥、(8) Codot Ngising - 脱糞する蝙蝠、(9) Bajul Putih - 白い鰐。

上に向かって礼拝したり「良い奉仕」を行って過ちを行ってしまった彼らにとって、彼らの心身は必ず sangkan paraning dumadi (聖なるもので、この世界で清く生活し聖な根所に戻る)条件の刑罰を受けるのである。彼らの魂が上記の世界で、最後の審判でアッラーが最終決定を下すまで刑に服すのである。〈53〉

第三節　南海冥府の女王は人間なのか幽体なのか

著者がインターネットに掲載されている記事を焼き直したこの論文は記事の著者が不明である。

南海の女王とはいったい誰なのであろうか。ヒンドゥー時代の昔、ちょうど Aji Saka, Aji Sakti, Aji Putih の時代にさかのぼってみよう。この三人は双子で Yamuna[19]河に近いインドの王国の Sungging Perbangkala 王と妃 Ratu Dewi Arumba の間に生まれた子供たちであった。彼らは成人し釣り合いの取れた超能力と普通の能力を備えたので、三人は王に、Cakra Bijaksana と Tiwi Krama に常にともなっている月下美人の接ぎ木の花の宝を奪い合うように懸賞をかけさせた。この宝を獲得したものは王に指名するということであった。王国の大臣、Abiyasa、がこの宝を遠くに放り投げた。その後、三人の王子たちはそれぞれの能力を使ってこの宝を追いかけたのだった。

一時代が過ぎてその宝はインドネシアの付近、正確にはジャワまで達した。数か月間の捜索の後、かれらはジャワに到着した。

時間的系列の話を省略すると、その宝物を発見したのは Aji Putih (末っ子)であった。優雅で物静かな態度で、その発見の情報は Aji Sakti (次男)にもたらされ、これは Sang Hyang Wenang (現在の言葉では「神」)の意図であると Aji Sakti は語った。ついに Aji Putih からその宝物を奪おうとする意図を持った Aji Saka (長男)に届いたが、Aji Sakti が防いだので宝物は Aji Putih の手中にあった。その時、Aji Putih が、もし長兄がその宝を欲しがるなら与えようと言ったが、この宝ものを発見したものが王になるという父親の約束通り Aji Putih こそ王になる権利を有することで Aji Sakti はこれを謝絶した。

Aji Saka は論戦を挑み宝物を得ようとしたが、常に Aji Sakti に否定されたため二人の兄弟の間で舌戦と実際の戦いになったが、Aji Putih は常に謹厳実直であった。ここで、忠実な謹厳実直さはよい結果をもたらした。<54>兄弟の争いは勝負が定まらず何年もそして何世紀も続き今に至っている。この争いに飽き飽きしたため、Aji Saka は最後には東部、正確には Bayuwangi(Alas Purwo)地域に行った。ここで Aji Saka は開墾を行い、Daha, Kediri, Singasari, Majapahit から Mataram に

19 (訳) ウッタルプラデシュ州を流れるガンジス川最大の支流である。ジャムナー川とも呼ばれる。

至る代々の王国を建国した。「この父にしてこの子有り」と言われるように嫉妬と権力への狂気は常に Aji Saka の子孫の行く手に伴ったため、Ken Arok と Tunggul Ametung 間、Tribuana Tunggal Dewi から、Surakarta 宮廷は現在 Mangkunegaran の支配権争いでさらに二つに割れてしまったが、Yogyakarta と Surakarta に二つに分割された Matram 王国までの覇権争いの歴史にみられるのである。

Aji Putih はどうなったのであろうか？Aji Putih は子孫ともども Galeuh Pakuan[20] 王国を建国し、一方 Aji Sakti は Pajajaran 王国を建国しただけで自分は王に即位せず大臣として国政に参加し、弟を Aji Saka の攻撃から常に守ったのである。

南海の女王とはどういう関係だったのか。Aji Sakti には Dewi Sri Pohaci (しばしば Cinde Maya とも呼ばれる)と Jaka Manggala という二人の子供がいた。Dewi Pohaci の美しさのゆえに王族はもとよりたくさんの男が彼女を娶りたがっていたので、Aji Saka は懸賞をかけて Jaka Manggala を超能力で打ち負かしたものを Dewi Sri Pohaci の婿に指名することにした。時が流れても、どんな男性も Jaka Manggala を超能力で打ち負かすことができなかったゆえに Dewi Sri Pohaci は物思いにふけるようになり、すぐには結婚できない自分の運命を悲しむようになった。Jaka Manggala は姉の Dewi Sri Pohaci をいつまでも深く愛していたが、姉のこの態度は Jaka Manggala に間違えた行為をしているという感じを持たせた。

熟考の後、Jaka Manggala は Dewi Sri Pohaci の前から姿を消すことにした。姿を隠すが姉からは遠くにはいないという条件で Dewi Sri Pohaci が理想の男性と結婚できるようにと。その方法とは？彼の超能力で Jaka Manggala は姉が理想の男性に出会うまで姉の恥部にもぐりこんだ。

月日は流れ幾世紀の後、ジャワ手はイスラムの時代に入った。とある日に Wali Songo は Panembahan Senopai を呼び、彼が体験する大きな事件があることをを伝えた。Panembahan Senopati は、お前の妻になる理想的な女性に出会うであろうが、結婚後 40 日間は肉体関係を持ってはならず、その間はあらかじめ決められた前庭で深夜の祈りを行うこと、と言われたのだった。

---

[20] (訳) Galuh 王国はその西側を Pajajaran 王国と Citarum 川で接し、東側は Cipamali 川(Brebes)までであった

確かに、とある日 Panembahan Senopati が森で狩りをしていたとき、大変な美人に出会い、彼女の上品な言葉遣いに魅せられた。最終的に、その女性は森の中に一人だけ取り残されていたので Panembahan Senopati の住居に案内した。Panembahan Senopati は Wali たちに、この女性は理想的な妻の候補かどうかを説明した。実際にはその通りであり二番目には結婚するようにとのことであったが、Panembahan Senopati は wali たちからの命令である 40 日間妻には触れないということを忘れてはいなかった。

三日目に、彼の方針とジャワ島南岸へのジャワ社会の態度を変える出来事が起こった。すなわち Panembahan Senopati が彼の妻の蚊帳の横でクルアンの読誦をしていた時、一人の男がその蚊帳の中にいるのを見てしまった。実際にはその蚊帳の中の男とは、妻の Dewi Sri Pohaci (当時は Cinde Maya と名前を変えていた)の弟の Jaka Manggala に違いなかった。Panembahan Senopati による各章の読誦から発せされたエネルギーの熱に耐えられず Jaka Manggala の形が姉の恥部からはみ出ていたのであった。

Panembahan Senopati は妻が不正を働いて Jaka Manggala に追いかけられているかどうかをちょっと考えたが、彼が追跡できないほどの速さですばしこく逃げ出すことができた。住居に戻ってきたとき、Cinde Maya は部屋にはおらず、正しく信仰を持つ男性であり夫であると納得した Panembahan Senopati に対して羞恥心が働いたこともあって逃げ出したように見えた。最終的に Cinde Maya は自殺するつもりで南岸の崖の上に急いで行った。自殺しようとしたときに一人の男性が彼女の肩を抑えたために Cinde Maya は自殺を中止することになった。この男性とは誰だったのだろう？

その男性とはよく通る声で Cinde Maya に問いかけて叱った預言者 Khidir AS であった。彼は、人間として自殺行為を行うことは大きな罪でありアッラーには許されないものであり、その結果は地獄行きであると忠告した。この恥辱に耐えるためには何をしなくてはならないのだろうかと泣きながら Cinde Maya は言った。預言者 Khidir AS によると、それは恥辱ではなく、アッラーが与えた運命であるとのことで、神の許しを得て Khidir は Cinde Maya に、南海の冥府に住みジャワの南海岸の自然環境を守ることにしたらどうかと申し出た。Cinde Maya はそれに同意していまに

至るまで Ratu Kidul の名で知られる南海に住むことになったのであった。

その疑問とは、海の中から出てきた絵にある美人として描かれたのは本当には誰であるかということである。この女性は Nyi Blorong であり、Ratu Kidul の娘であり軍司令官である幽体である。人間とは衣服も肉体なども同じにしたくないというように彼女の性格は良くないのである。陸上部分は Centing Manik という幽体に、北海岸地方は Dewi Lanjar (死霊)に支配されている。この Nyi Blorong も世間では Nyai Rara Kidul として知られているものであり、Rara Wudu sang Ratu Lara Kidul として Hien が特定したものである。(Suyono, 2007: 127-128)。Nyai Riya Kidul と呼ばれることもある。

まとめると、Ratu Kidul は肉体的老化の過程を経たアッラー「そこにあれ」の言葉により存在した人類でもあり、彼女は、自分の子孫を常に守護することで二つの世界に存在できるという神の恩恵を得たのであった。Haya min autiha ka bada min sahadati (ヘブライ語で、「人間として我々の風習が有効になることを記憶せよ」)〈57〉

第四節　Wahyu keprabon(神の啓示)と南海冥府の女王との関係

ジャワ社会では、政府組織の頂点に位置する人は「神の啓示」を受けた人であると信じられている。。しかしながら、高い地位にある人は啓示の陰にいるというのは必ずしも当たっていない。賄賂やマネーポリティックスなどの狡猾なやり方で引き寄せた権威は啓示を受けた(Ketiban ndaru)地位には含まれないのである。地方政府の長であれ中央政府の高官であれ本当に民意に基づいてその地位に達した人や、正しい方法でその仕事を進めることができる人が神の啓示を受けた人であると呼ばれるのである。このカテゴリーは、そのすべてが人間の分別を越えたところで動いていることを考える必要があり(meniscayakan)、従ってこれらの長たちは国民を統治すべしという啓示を得ていると考えられている。

指導者に与えられた「啓示」に関する概念は、その清さ、神の代理であるとの確信と宮廷への信頼が融合したもので、Moertono (1968:52)によると、それは「栄光

への信仰(Cult of Glory)」のように呼ばれるものにその基盤を置いているとのことである。ジャワの宮廷に対する信頼から出てくる詳細事項はこのように複雑であるとしても、実際にはやや少ない宗教の諸原理にその根底があるのである。その中には啓示、超能力、王を神の使徒と同一視すること、神秘との単一性に関する聖人(スゥフィー)の学説などがある。

ジャワイスラムの文脈における啓示の概念とは、預言者たちと伝道師たちと優れた王から成り立つアッラーに選ばれた信徒に対するアッラーからの連絡のことである。この「連絡」は天使や選ばれた伝道師、聖霊、聖なる性質を持つ物質の仲介を通じて可能となった。普通、それは物理的存在として認識され、一人一人に尊敬と神聖さを届ける輝かしい光からしばしば成り立っている。啓示を受けた人は内臓から放射される柔らかな光を放っていると信じられている。

ジャワ文学で啓示を受けた人でもっとも有名な人の一例は、落ちた流れ星を通じて啓示を受け取ったとされている、マタラム王朝の創始者 Panembahan Senopati である。〈58〉この神話は啓示の意味がそのことを通じた神の約束の託宣であったとみられる。光からなる星や光線は、それを通じて発表されたアッラーの権威の道であり、創造に関するスーフィーの理論では命の源泉、天国と地獄、アッラーの王座と全ての存在であり、啓示の象徴となっている。アッラーはしばしば白い光線で代表され、クルアンの中の例え話の理解によってこのように言われるのである。星も預言者ムハンマドの啓示の象徴として有効である(Al'Qur'an/53:1)[21]

ジャワ人は啓示に何種類かあると信じている。もっとも重要なものは大臣と軍隊、イスラム教師を伴った王である。アッラーがこの世で何かを成し遂げようとしたときに、神は適切な人間を選び出し、この仕事を実行することを可能ならしめるような啓示を送るいうことがしばしばみられる。

この啓示はアッラーが下したものであるが故にもそれを受け取った個人はその仕事の途中で失敗することはなく、この問題がいかに大きくとも小さくともまったく気にしないのである。この限られた範囲において、行動はアッラーの意志通りに直

[21] 星章(アン・ナジュム) マッカ啓示 62 節

1. 沈みゆく星にかけて(誓う)。

接動かされるのである。啓示によってその権力を得た王は転覆させられたりその罪や間違いに降伏させられることがない。その人は、この世のアッラーの代理人として Kalifatullah と呼ばれる。Serat Centhini (Mudjanto 1986:107)は、アッラーの代理となった預言者ムハンマドの代理が王であると述べている。スラカルタの Pakubuwono 14 世は、自分を神の代理人だと考え、神に対して反逆すると同じように王宮の権威に反対することを同一視することによってこの状況をより明確に発表している。(Mudjanto 1986:107)

必ずしもすべての王が啓示を受けたわけではなく、啓示を受けた王も、アッラーの目的を満足させられそうになかったり、過度の威光で宗教上の義務を無視した場合には、消滅したのである。これが生じるとこの王の性格が過激的に変化し、慈愛の心が変化して争いを好むようになり国民を搾取するようになる。Moertono は、啓示を失った王を「その前に置かれた木と戦うヤギ」と同じであると言っている。(1969:74) Babad Tanah Jawa は、啓示を失った影響についてこう述べている。〈59〉

> 王の行動がそれまでと変わった時、しばしば厳しく刑を言い渡したり残虐な行為をするようになる。王宮の高官と宮廷官吏、王の親戚たちは自分たちの地位を心配するようになり、しばらくすると秩序が激しく崩れる。Mataram の全国民は不安感を持つようになり、日食や月食が頻繁におこるようになり、季節外れの雨が降り、毎晩流れ星が見えるようになる。火山の降灰と地震が何回も起きる。多数のきざしがみられるようになる。これこそが王国が衰亡に直面する予兆なのである。

ジョクジャカルタとスラカルタの社会の一部では、現代社会におけるこの二つの王国の利点を開設するために啓示という概念をしばしば用いるのである。幾人かの人たちは、この二つの王国は衰亡をたどりつつあり、彼らへの啓示は Orde Baru(新体制)時代のインドネシア大統領のスハルトに移ってしまったと言っている。この見解は、多くの政治的な後退と独立以来の自然災害を体験したスラカルタで一般的になっている。そこの宮廷の大部分が 1987 年に火事で焼失した際、王族の人たちのみならず大衆も宮廷への啓示がすでに消滅しもう戻っては来ないと見たのであった。この状況で、スラカルタは、ジャワ人がデマックとマジャパヒトを見るように、すなわち魂がこもっていたことがあった国としてよりも歴史への崇拝要素と

しての方が勝っている、なり始めたのであった。この状況はジョクジャカルタとは異なっており、同地では Hamengku Buwono IX が確実に啓示を有しており霊界から十分な支持を得ていると信じられている。与えられた啓示はその王国を援護する特殊な形であるからゆえに、日本占領下であっても革命など中部ジャワでの政治的な混乱の時代でもそのまま維持されたのである。

最重要やジャワの「勝利への崇拝」の要素を啓示が形作っているとはいえ、それに関して傾注するのは、王が宗教上の証明書の源と他の超能力の権限をコントロールすることを彼が可能ならしめるという事実から始まるのである。彼は繁栄と社会の調和の最後の源であるからして、彼は王を権力の正道と良い人間性を形作る神の恩恵に向かわせる。上記の宗教上の証明書と権限の源をコントロールする形のひとつは、南海の支配者である南海冥府の女王と王を結びつけるネットワークなのである。したがって、ここでの南海冥府の女王の立場は例えば王とアッラーとをつなぐ橋のようなものであり、神から王への啓示の一つの方法は上記の南海冥府の女王という霊的な存在を仲介するものである。

第五節 南海冥府の女王と王の超能力

これに続いて、マタラム王が持っていなければならず、南海冥府の女王に関係する超能力と魔力に関する Woodward (1999)と Twikromo(2006)の説と研究結果を見ることにする。ジャワの超能力の概念はサイヴァ、超能力に関する理想から発生している。Kasekten(超能力)は Anderson が 1972 年に発表したように、世界の全人類に命を与える物理的存在なのである。Suparlan(1976,1979)によると形を変えたいろいろなタイプの超能力があり、それはそれぞれの利用法とそのそれぞれのモラルの性質を有している。(まずは Koentjaraningrat と Woodward が 1985 年の論文に見られるジャワの文化の中の魔力のモラルの程度の問題であるが、超能力説に関しては後述する)。一般的に超能力

Sri Sultan Hamengku Buwono IX

は非道徳的であると理解されている。悪人の手で利する超能力は大きな危険を生じさせる。その反対に、サルタンの手中にある時破壊的超能力は社会の善行に利用することができるのである。

超能力は激しい修行を行うことかあるいは世界の超能力の一つの源を持つ個人の魂と合体することで得られる。ジャワの神秘主義の目的の一つは、それを一人ひとりに向けることによって世界の超能力の正道のための能力得ることである。この超能力は内実を形作るがゆえに、その人はとある対象に含まれていたりその中に内在されることができる。この超能力の対象は世代から次世代へと伝えられて遺産として呼ばれている。

サルタンの最も大事な義務の一つは王国内で最も大切な超能力の源泉を支配することである。これは次の三種類の方法を通じて成し遂げられる。〈61〉(1) 王の権威と過去の伝道師を守る遺産を所有していること、(2) 他の超能力の源泉を支配し所有している超能力を開発発展させること、(3) 強力な霊である南海の女王との関係を保ちきわめて強力な霊界の軍隊を率いること。

このように、ジョグジャカルタのサルタンは、神から直接のみならず、神が選んだ霊体という仲介者を経由して神の啓示をサルタンに与えるために、神の指導を絶えず得るのである。

サルタン・ハメンクボヲノ 9 世の霊界の経験の一つから、各々のサルタンは天使のみならず先祖の霊からなる各種の幽体(makhluk halus)の仲介者を通じてアッラーに保護されていることがわかるのである。GRM Dorodjatun(後のサルタン・ハメンクボヲノ 9 世)がサルタンの地位に上った時 Dorodjatun はジョクジャのサルタン国に不利な内容を含むランダとの契約に調印しなければならなくなった。しかし、同サルタンが受け取った霊界からのささやきのおかげでその契約書は調印されたのだった。上記のサルタン・ハメンクボヲノ 9 世の霊界の経験は Tahta untuk Rakyat (Atmakusumah 1982:44)にこうある。〈62〉

> このような状況の下、1940 年 2 月のある夕方、Dorodjatun は夜に向かって暗くなりつつある中で横になって休んでいた時、彼は異常な体験をしたのだった。六時に向かって暗くなり始め、彼は本当に居眠りをしていたとは

確かに言うことができないか、あるいは覚醒と睡眠の間にいたとき、彼は誰かがジャワ語でこう話しているのを聞いた。*Tole, tekena bae, Landa bakal lunga saka bumi kene*、「息子よ、契約に調印するがよい。オランダはこの土地から出ていくようになる」と。

事実、Dorodjatun がその契約に調印してサルタンの地位に上がった時、長い闘いなくしてオランダはインドネシアの地から出て行ったのであった。サルタン・ハメンクボヲノ 9 世は受けた啓示に対して深い信頼を寄せたので、調印前に契約書の内容を読むことなしにこれに署名したのであった。崩御するまで、ハメンクボヲノ 9 世は、この時調印した契約の内容は知らないままであった。

ジャワの思考方法のフレームでは、この「ささやき」はこの世界に存在する権力を手中に入れることができた人にしばしば受け入れられているのである。王にとって、受け取った幽体との体験やこのささやきは、王は全域で行政と施政のために存在するものであるから、王国や全国民の必要性のために用いられると考えられている。歴史の傷で書いたように、Pangeran Mangkubumi(皇太子の弟がなる首相)がジョグジャカルタの王宮を戦略的な場所に置いたことで、瞑想や苦行、断食など神や超自然世界の生き物からの指示を行ったのであった。このような方法こそが、絶えず国民を指導していけるような王が本来行わなくてはならないことであった。上記の超自然社会での存在の一つが Kanjeng Ratu Kidul (南海冥府の女王)であった。

それ故、ジョクジャカルタのサルタンたちの本質は、彼らが Panembahan Senopati の子孫であることゆえに南海冥府の女王と特別な関係を保持していると信じられている。実行されている上記の関係とは個人的なものでありわずかな人たちしか知らないのである。<63>ジャワ人の視点とは言え、上記の関係は、サルタンが国民の安寧秩序に対する重大な責任を負っている故に王国全体の必要性によって保たれているのである。上述のように、王国の本体に障害が生じた時はいつでも相互扶助するための Panembahan Senopati と南海冥府の女王との約束にその源がある。Hamengku Buwono X 世の弟の一人はこう解説している。(Twikromo, 2006)

サルタンは南海冥府の女王と確実に関係を持っている。上記の関係はサルタン個々人に大きく依存している。その関係の形については、きわめて個人的で特殊であるから私は解説できない。

ところが、Segara Kidul (Parangkusmo)の沐浴場の管理人は南海冥府の女王とサルタンとの関係をこのようにはっきりと述べている。

ジョグジャカルタの宮廷のサルタンは昔から南海冥府の女王との関係を有しており、そのすべては神秘体験である。その昔から代々その種を有しているため、南海冥府の女王は王となった Panembhan Senopati の子孫を常に助けているのである。〈64〉ジャワの風習によると、Kanjeng Sinuwun が peteng penggalihe の(重要な問題で頭を痛めている)時に彼は南海冥府の女王の支援を得るために瞑想を行う。〈64〉この瞑想は、全知全能の神に願うためにジャワ人にとってすでに義務となっている。サルタン Hamengku Buwono と南海冥府の女王との交信の結果は、オランダ支配時代のみならず現在もジョクジャカルタのサルタン国の安寧秩序となっている。

南海冥府の女王と出会うための伝統儀式と瞑想を行うために、ジョグジャカルタのサルタンは南海地域に行くことは必ずしも必要とされないがゆえに、宮殿の中にも南海冥府の女王と出会うために特別にしつらえられた場所がある。ジャワ人たちはジョグジャカルタの宮殿の Tamansari にある Gumuling の井戸と Umbul Binangun はジョグジャカルタの宮殿と南海にある宮殿とをつなぐ地下トンネルを有していると信じている。

Gumuling の井戸

Umbul Binangun

この地下トンネルはサルタン Hamengku Buwono が南海冥府の女王と連絡を取りたいとき

のルートであると信じられている。Tamansari 自体はサルタン Hamengku Buwono 一世が 1758 年に建設したものである。Praja Tamansari 群こそが、サルタンと南海冥府の女王が出会うための特別な部屋としても建てられたのである。

南海冥府の女王という点以外にも、このような遺産建造物はジャワの宮廷の信仰では極めて重要な役割を果たしている。各々の遺産建造物は常にジャワあるいはイスラムの歴史において権力を有した特定の人物と関係している。(遺産構造物の大多数は Senopati あるいは Sultan Agung の所有であると信じられている。そうでないものはイスラムの伝道師とムハンマドの幾人かの子孫と関連付けられている。) この中部ジャワの第二の宮殿は数百の遺産を有している。その中で最も重要なのは各種の儀式の際にジャワの男性が用いる短刀 Keri や槍、18 世紀の宮廷馬車、ガメラン、聖典、ジャワへのイスラム伝道師たちとムハンマドに対する信仰である。この遺産のいくつかの部分は軍事目的として特別に利用され、その他は病虫害(稲に損害を与えるネズミと害虫)、さらには豊作と畜産の成功を祈願するため、またイスラムへの改宗する一助のための神秘的能力を有するのである。〈65〉ムハンマドの誕生記念祭の儀式で宮廷のモスク広場で演奏される Gemelan sekaten(中部ジャワの伝統儀式に用いられる音楽)はここの神秘的能力があると信じられている。この Gamelan は一般的な楽器と比べると二倍の大きさがあり[22]、数キロメートル先からも聞こえるほどである。伝説によるとこの楽器はヒンドゥー教徒をモスクに誘うために Demak の初代サルタンが使ったものだとのことである。Kartasura の宮廷が所有している二つの gamelan がある。宮廷が二つに分かれた時、一つはジョクジャカルタに、もう一つはまだスラカルタに与えられた。それぞれの宮廷は必要に応じてレプリカを所有している。モスクで演奏される音の一つは南海の女王が調律したものと言われている。それは受難したその子フセインの死の故にムハンマドの姉妹の悲しみに似ていると信じられている。

毎年、特別な伝統行事の一部が garebeg[23]の儀式や他の国家的儀式の催行をもって行われている。この件は超能力の一部が国民にしみこむことを可能ならしめている。宮廷から持ち出すことができるものが何かを決めることができるのはサル

22 (訳)ガメランに詳しい友人の話では楽器の大きさは 2 倍とまではいかないとのこと。
23 一年に三回行われるジョグジャカルタ王宮の伝統儀式。

タンのみである。その選択は各々の宝物に込められた超能力の種類と国民たちに必要な条件で決定されるのである。

王とのその代理人は、彼らが長時間にわたる苦行を行う能力があることで尊敬されている。これは、洞窟の中や川のほとり、樹上あるいは人が入らないような森の中の石の上が一般的な断食を含んでいる。正統な伝道師たち、Sunan Kalijaga、Senopati、Sultan Agung は何週間や何カ月にも及ぶ断食修行耐えられると信じられている。彼らもまた、海水を煮立てたり全世界を破壊することができる超能力を備えていると信じられている。その大部分は世を捨てることによって諸王が敵を降参させたり霊界を支配するための能力を醸成することである。すでに試みた多数の人たちはいるが、諸王のみならず昔の伝道師によって行われたことに近づくために苦行を行ったが誰一人として成功したものはいないと広く信じられている。〈66〉二世紀余りにわたるオランダのジャワ支配と彼らの権力(西洋的理解による)は、ジャカルタの分割された政府によって承認されこの地位に関する重要証拠として取り上げられた。ハメンク・ブヲノ 10 世は、彼自身が正当な軍隊の司令官になった最後の王であるからたぶん除外されるであろう。現代の諸王の不可能さは修行を行うことで、その影響として、驚異的な新しい権力の集合を吸い込むことができなかったことは、輝かしい王朝時代の権力を囲んでいる宝物に対する極端な礼拝の発展に影響を与えた一つの要素である。

南の女王(Ratu Kidul)はジャワの宗教において重要な位置を占めている。彼女は南海冥府の女王であり中部ジャワの霊たちの指導者である。また、彼女はマタラム諸王の妻になり、宮廷で最も重要ないくつかの伝統儀式に焦点を当てているのである。Babad Tanah Jawi と口伝によると Panembahan Senopati が Lipra[24]で啓示を受け取り、彼は苦行を行うために南岸に一人赴いた。その目的は、Sultan Pajang という敵を降伏させるために必要な超能力を開花させるためであった。希望する権力はかなり多くの瞑想を通して吸収され、海がしけて大部分の魚が死んで海岸に打ち上げられた。その時南海の女王は、宮廷での結婚式に用いるような衣装で非常に美しい若い女性として現れたのであった。彼女は Senopati に苦行を止めさせその代わりにその妻になり、霊界のすべての軍隊を Senopati の政府の

[24] 原文では Lipra とあるが、website では Lepra(らい病)となっているものが多い。

下に置くことを申し出でたのであった。Senopati はこれを受け入れ彼女と共に結婚式が行われる海中の宮殿に行ったのであった。

南海の女王と Panembahan Senopati との結婚は空想的な文学で広く大罪とされている。文学と民間神話では、南海の女王と Panembahan Senopati との邂逅は恋愛物語としてしばしば描かれているが、いくつかの別な物語では南海の女王が Panembahan Senopati の肉体を破壊し彼女の王宮にとどめておくようにしようとした謀略であったとも言っている。このように、南海の女王はしばしば美しい若い女性として描かれているが、他方、醜い老女としても描かれている。<67>宮廷の理論では、彼女は満月に近づいた時には若く、それを過ぎると年寄りとされている。

あまり人口に膾炙していない Babad Tanah Jawi によると、Senopati は Sunan Kalijaga の支援のおかげでこの謀略から助けられたとのことである。一方、南海の女王が Panembahan Senopati に与えた幾つかの物、Telur lungsu jagad と minyak jayengkaton[25]を数人の宮廷使用人に対し Sunan Kalijaga が試してみた。Telor lungsu jagad は後日醜い巨人に変身してしまう Ki Juru Taman へ、minyak jayengkaton は Senopati の身の回りの世話をしている Ki Kosa と Nini Panggung に与えられた。この二人に油を数滴たらすと、姿は消え失せて幽霊と変化した。巨大な幽霊となった Ki Juru Taman は、Sunan Kali Jaga によって Merapi 山の支配を命じられた。一方 Nini Panggung はジョグジャカルタの宮廷の Ki Kosa は宮廷前広場にある霊界に住むことになった。数々の Babad Tanh Jawi の版では上記の南海の女王の謀略の記述が削除されている。

---

25 https://xmgz.blogspot.jp/2013/08/bukti-cinta-ratu-kidul-dengan-sang.html?m=1
Meniek Soerjosoetanto Konon pada masa kerajaan Mataram tepatnya pada pemerintahan Panembahan Senopati Pendiri Dinasti Mataram (1575-1601). Panembahan Senopati mempunyai kekasih yang bernama Kanjeng Ratu Kidul, Penguasa Laut Selatan. Ketika keduanya sedang memadu kasih dia diberi sebutir telur yg disebut *"endhog jagad"* (telur dunia) untuk dimakan. Namun dinasehati oleh Ki Juru Mertani agar endog jagad tersebut jangan dimakan tapi diberikan saja kepada Ki Juru Taman. Setelah memakannya ternyata Ki Juru Taman berubah menjadi raksasa, dengan wajah yang mengerikan. Kemudian Panembahan Senopati memerintahkan kepada si raksasa agar pergi ke G. Merapi dan diangkat menjadi Patih Karaton Merapi, dengan sebutan Kyai Sapujagad. Sebagai perwujudan kepercayaan Karaton Mataram terhadap keberadaan sekutu mistisnya yaitu Karaton Kidul (di Samodera Indonesia) dan Karaton Merapi ini, maka diselenggarakan prosesi Labuhan.

Pusaka *'Lenga Jayeng Katon'* adalah sejenis minyak yang jika dioleskan di mata dapat melihat para makhluk halus, dahulu yg memiliki Pusaka ini adalah Raden Harjuno, penengah Pandawa. Smg bermanfaat. Penjelasan dari mas Ismuwiranto Dionysius

南海の女王の霊界の軍隊は Senopati が海岸地域の諸王国を攻撃した際や Sultan Agung と Hamengkubuwono 一世のオランダ反植民地運動を起こした際に彼らを支援したと信じられている。口伝によると彼女はインドネシア革命の際に Hamengkubuwono 九世に支援をもたらし、第二次世界大戦の際には日本海軍を降伏させることに尽力したという。ジョクジャカルタの多くの人は、インドネシア海域に入ってくる不純な目的を持った船を南海の女王が沈めるので、インドネシアでは強力な海軍は必要ないと信じている。南海の女王は極めて危険な霊界の軍隊を支配しているのである。彼らの一部はジャワ南岸の「原住民」である。一方それ以外はジョグジャカルタのサルタンが女王に送った軍隊である。ジョクジャカルタ王室の建国に関係する神話は、Hamengku Buwono 一世は彼のサルタン国内のすべての霊を降伏させたと述べている。そのうちのいくつかはイスラムに改宗し、その他は南海とメラピ山に隔離されたのであった。

国民を震駭させる自然災害や事件が起きた時にはサルタンは直ちにその意味を理解しなくてはならないのである。その超能力をもってサルタンは国民の安寧を図り、自然との均衡を取るべく超自然的な存在と連絡を取らなければならない。〈68〉自然災害も、Juru kunci Pemancingan Segara Kidul (Parangkusumo)によって見られるように、厄払いあるいは海神祭り(labuhan)を止めるようなことがあった時に起こりうるのである。

> ジョグジャカルタ・サルタン国[26]にある精糖工場は、毎年の操業開始前に南海の女王への祈祷への供物を常に行っていた。しかし、Nur(仮名)氏が所長になった時に、操業開始前に彼は忙しさに紛れてこの供物を行うのを忘れたのであった。事実、操業中にすべての圧搾機に故障が発生した。南海岸でその供物を行った後はその圧搾機は普通通り動いたのであった。

ジャワ人の人生のサイクルの中で、自分たちを取り囲む超自然的な存在あるは霊の支配者に供物をささげるための義務となっている。上記のジャワ人の毎日の生活の中で認識される信仰であるので、サルタンは自分たちを取り囲む超自然的な存在あるは霊の支配者との関係をつなぎとめるためにこれを行うことを要求されるのである。〈69〉

---

26 ジョクジャカルタ特別地域

Hamengkubuwono 10 世

「国民のための王座の説明」(Menegaskan Tahta untuk Rakyat)という本の中で、Hamengku Buwono 十世は中立的にぼんやりとではあるが南海と南海の女王に関して解説を述べている。

> 私にとって、それは結婚の象徴であるという概念の形式を有している。この時代に大衆がこの結婚の象徴ということを信じるのなら、この社会、特にジョグジャカルタの社会にとってそれが有益であることを意味している。しかし国民の熱意を知らなければ私は何の意味があるのであろうか。というのはその結婚の象徴は垂直かつ水平な関係であるからだ。国民はこのように均一で常に動きを止めない海として表徴される。このことは支配者として manjing ajur ajer[27]をしなくてはならないことに密接に関連している。その一つは身分の証明[28]としてであり、他方は象徴化としてである(Margantoro, dkk., 1999:197)

サルタンのこの解説はサルタン Hamengku Buwono 十世が要求されているそのどちらでも確かに現状でも彼のおかれた状況を関知しており、国民が信じている伝統的な規則をまったく揺るがさないようにしている可能性がある。

南海の女王はこの両方の宮廷での儀式と最も清い宮廷舞踊、特に bedaya

27 (諺)その社会に溶け込み仲良くすること。
28 サルタンが南海の女王の夫であることの証明。

ketawang と bedaya semang[29]の舞に焦点を当てられている。彼女はサルタンとスラカルタの Susuhunan 宮廷[30]を彼らの即位記念日に毎回訪れると信じられている。この機会に彼女は新婦の服装で現れサルタンと一夜を過ごすのである。スラカルタの宮廷では Senopati[31]と南海の女王との結婚を描いた伝統儀式に関連して舞踊が繰り広げられる。同じ舞踊がジョグジャカルタでも行われていたが、はっきりとした理由はわからないが、この舞踊は 1930 年代には執り行われなくなった。ジョクジャカルタではこの舞踊とガメランの楽曲をもってこの伝統を再興しようとするための行動が既にとられている。この練習は既に開始されているが、この舞踊はまだ実施されていない。踊り手が病気になったり予定されていた開催日に凶兆がしょっちゅう現れたりするのである。この件は、南海の女王がジョグジャカルタ王宮で開催されるこの舞踊を望んでいないことを王宮の人たちに信じさせるのである。これこそが彼女が現代スラカルタにおいて相当に重要とされている理由である。〈70〉スラカルタ宮廷の優越とその証明は、上記の舞踊を維持できているジャワの宮廷はスラカルタのみであるということに基づいているのである。

毎年一回、Senopati が初めて南海の女王と出会ったジャワ南岸の村である Parangtritis に結婚衣装とサルタンの着た服、髪と爪、を運び奉納の儀式が行われる。切り取られた髪と爪は Senopati が苦行を行った岩のそばに埋められ、衣服と奉納品は海に投げ入れられる。この儀式は南海の女王とマタラム王家の同盟を維持するための方法として理解されている。サルタンと南海の女王の関係が続く限りこのマタラム王朝は守られて断絶しないと広く信じられている。

南海の女王はもう二度とスラカルタ王宮を訪ねたり少なくとも Susuhunan のサルタンの妻にはならないという話が特にジョクジャカルタの人たちの間で伝わっている。スラカルタの宮廷に近いスラカルタの人たちの話しによると、南海の女王は現在サルタンの妻というより継母であると理解されているとのことである。この意見は、サルタンの父親である Pakubuwono 十世が彼女の息子であることを表明したという神話に基づいている。スラカルタの一部の人たちは、Pakubuwono 十世の生育中に南海の女王がスラカルタの王宮を訪ねた時、養育係たちは女王を伴ってこの王

29 ジャワの宮廷伝統舞踊。どういうものかは Youtube で動画を見てください。
30 18 世紀初頭にジョグジャとスラカルタに王宮が分裂した。
31 現マタラム王朝の創始者。

子をその座から追い落そうとした霊界の軍人に脅されたのであった。南海の女王は養育係に対して怒り、自分の子であると言ってその子を取り上げようとした。この神話は第二次世界大戦終了以来、神託がスラカルタからこの王家の没落をもたらそうとすることを避けたという信仰と深く関係している。ジョグジャカルタの複数のスポークスマンは、南海の女王が Susuhunan の妻ではなくなったにせよ、ジョグジャカルタのサルタンとの関係はそのまま変わりなく続いていると述べている。〈71〉サルタンは一度も第一夫人を指し示したことはないという事実は、以前のサルタンたちが支配していた時と比べてその重要性は比較にならないほど評価が高くなっているとはいえ南海の女王がその地位に存在しているという説が固く信じられている。

南海の女王はサルタンに付与された超能力の源の一つであることを構成している。しかし、彼女も非常に危険である。彼女は定期的に人身御供を要求しスラカルタとジョグジャカルタの王宮の近くに住む人たちをさらうことが報告されている。彼らは南海の宮廷の使用人として連れていかれるのである。その軍人の数人はしばしば病気の原因となったり、南海の宮廷に付近に入った漁船を破壊したり、Parangtritis 近くの水域に入ろうとする誰をも走らせるのである。サルタンと南海の女王の結婚は喜ばしい話の一つである。宮廷と関連する伝統儀式は霊に対する崇拝や祈祷に基づくものではなく強力な契約関係によるものである。サルタンはその権力と霊界の軍隊を必要としているが、支配するための自分の権力への脅しと与えられたものを束にしてまとめなくてはならないのである。

幾人かの超能力者や神秘主義者が南海の女王と話したことがあり、この話を物語ることができるとはいえ、大多数のジャワ人たちは南海の女王の本質が非常に悪辣であると信じている。この理由により彼らは、彼女と結婚したあるいはその反対であると主張する超能力者や神秘主義者が見つけだした必要な要求事項を理解するのが困難である。スポークスマンはこのような話の正確さは信じるに困難であるが、ここに別な角度から見ると南海の女王は自分に関する嘘の話を広めた誰でもを殺す可能性があると説明している。このような話が出るのは大部分のジャワ人(大衆)が南海の女王(Kanjeng Ratu Kidul)と南海冥府の女王(Nyai Rara Kidul)とを違いに理解不十分であることに起因しているために過ぎない。

理解による不道徳的な超能力は良くないばかりではなく悪辣である。ジャワ人

の大多数は簡潔な自然の権力であるとしてかたく信じている。〈72〉超能力のさまざまに変化した方法は善行のためのみならず悪事にも使うことができる。それゆえ、超能力の利用に対する道徳的評価は、その目的とそれを使うことが許された人の道徳的観点に基づかなくてはならない。さらに、心身が礼拝や肉体的訓練、瞑想に対して十分なる耐力がない場合には超能力の獲得は極めて有用ではあるが、十分に存在すると病気や精神異常に影響する可能性がある。例えば、サルタン以外にそれを使おうとする誰にでも危険をもたらす可能性がある強力な多数の遺産であると信じられている。その遺産を扱う宮廷の官吏たちといえども、これに畏敬の念を抱いている。サルタンの近衛部隊員は、彼が捧げる槍は超能力があり、しばしば飛ぼうとしていると述べている。その儀式の数日前から彼が断食も瞑想もしない場合には、その槍が手から離れ他人を殺すかもしれないと心配している。

ジャワ人によれば、南海の女王(Kanjeng Ratu Kidul)は南海の霊的存在を配下にして支配している神の代理人としてとえられているから、彼女の権力は絶対的である。それゆえ、恩恵を求めたりその人の人生における安全を願うべく多数の人たちが南海岸にやってくるのである。Pemancingan Segara Kidul の番人ははっきりとこう述べている。(Twikromo, 2006)

> その代理人がいる国家元首の場合と同様に、神にも代理人がいる。神にも南海とジャワの土地を平穏に保つための代理人、南海の女王、がいるのである。神に対して何かをお願いする時には Parangkusumo で南海の女王を通じて行わなければならない。そのお願いがこのルートを通じる場合には必ず聞きどけられる。

Bantul の Pleret[32]に住んでいる神秘主義者も「南海の女王は悪魔でも幽霊でもなく、ヒンドゥー教の神である dewa(正しく言うと dewi)である」と言っている。彼女は Mangayu Hyning Bawana すなわち国々を統一する(世界の平和を守護し世界を平和にする)ことに尽力しているのである。南海の女王に対するジャワ人の観点は事実上、ジャワの王に対する彼らの観点すなわち世界に対して権力を持つアッラーの代理人であるということである。〈73〉この形の差異は、すなわち見ることができるジャワの王と肉眼では見ることができない霊的な性格を有する不可視の南海の女

32 ジョグジャカルタの南東部の町

王にあるのである。南海の女王の権力が具現化されたものは、南海の荒れ狂う波、多数の人たちが南海に消えたこと、強風、その他の自然災害である。上記の事件は、人々の安全と平穏維持しようとする海の支配者への供物の奉納という方法を持つがゆえに、供物の奉納という手段で制御できるのである。ジャワ人の確信によると、この世界における山や海、森、洞窟その他の聖地は供物を奉納しなくてはならない場所なのである。この世界で生きる上で、この人生が安全で平穏に保たれるように我々の身の回りにある自然界に住むことを通じて知らなくてはならないのである。供物の奉納を行うことで彼らを理解できるのなら彼らも、我々の安全を守るという方法で我々を守ってくれるのは当然である。

サルタンが支配したり、高度な超能力の源を利用する能力は、上記の危険を持つ柱の一つであることによると、信仰への証明に対する第一の要求の一つになっている。その超能力とアッラーとの特別な関係の故に彼はこれを行うことができるのである。それゆえ、自分自身や他人を危険にさらすことなくこの「先祖からの遺産」と大衆との間の超能力の深淵を制御できるのである。このようにして、この対象物の超能力のみならず南海の女王も含めて、悪事ではなく建設的な目的に使用されている。確かに、サルタンは王国のすべての超能力の源を支配しているわけではない。個人の所有にかかるこの「遺産」はまだたくさん存在し、これ以外にも苦行を通じて開発することができる超能力もある。サルタンの義務の一つに悪と戦い、魔術師や悪人に使われてはならない超能力の利用がある。この状況を達成するためにサルタンは、不完全な方法で運用すると大きな危険を招く南海の女王のような超能力の源を利用しなければならない。サルタンが超能力を利用することは神の宣託ゆえに一般人の利用の間に大きな差異がある。〈74〉この件は、サルタンに一般人よりずっと大きく超能力の源を開くことを可能ならしめ、道徳的な目的と社会的に有益なプロセスに向かわせるための知識を与えるものである。

第六節 なぜ南海の女王でなくてはならないのか

今に至るまで、南海の女王は南海だけの支配者であるという一般的な理解がある。これ以外にもこの都と政治の中心地は海の中、Kang kekutha neng jeladri

(Babad Sultan Agung, 1980)や、ngedhaton ing dasaring seganten kidul (Hadiwodjoj, 1981)に存在するという一般的な理解が存在する。他方、この本の中でより詳しい解説がみられるのではあるが、ジャワ人の理解では、干満の影響と segara sewu 帝国(これが王国の正式名称)の発展により南海の女王の支配は南海すなわちインド洋のみならず政治の中心地も常に移動しているのである。

従って、この南海の女王の存在に関する問題で、世界の終焉まで終わらない反論が出てくるのは確実である。このところ、海神祭りなど、南海だけに焦点を合わせた点に注目し北の海(ジャワ海)での行為平衡を取らない人が存在する。より詳しくは Hadiwidjojo (1918: 52-53)によるとも今の神秘主義者たちは、ジャワ人たちは南海の女王を、海を代表する自然の女神が具現化したものである自然界の支配の象徴として信じられている。他方、Suna Lawu, Ratu Sekar Kedhaton, Kyai Sapu Jagat は山の神であり、Bethari Durga は森の神とされている。

南海の女王の宮殿はジャワのどこにあるかという地域的な意見に関連した南海の女王の存在は、海洋地区を彼女が支配できるようになりかつ繁栄した場合には確実に大きな問題になるという別な分析がある。(Setiadi, Hadi と Trihandayani, 2001) Lombard は南海に対する信仰は、南海が人間の場所ではないという意見故に打ち立てられたと述べている。<75>上に述べた数々の解釈は、決定的に暫定的な性質を持つ政治に関する自然のつり合いの表象に立脚するものであり、その重要性から分離されていないと述べている。

この自然との共生の概念において、ジャワ人は登記図に関して keblat papat lima pancer[33]を信じている。Kasusunan Surakarta 出身の RM. Riya Yasadipura によると(MT. Arifin, 2008)、マタラム王宮は四方向から霊力で守られており、(1)東は Sunan Lawu Sepuh, Sudan Lawu Bagus と Lawu 山の Sunan Lawu Anem、(2)南は Parangkusuma の Kencanasari 女王と Kahyangan Dlepi の Kyai Udanongga あるいは Widadongga(男女ではない)、Goa (洞窟) Kalak の Kencanawungu 女王、(3)西は Merapi 山の Sekar Kedhaton と Kyai Sapu Jagad、Kyai Sapu Regol、北は Aalas Krendhawahana の Bethari Kalayuwati 女王と(しばしば Pelabuhan Ratu の

[33] "Sedulur papat limo pancer"ともいい、東西南北に位置する四人の兄弟(大宇宙)とその中心にいる自分(小宇宙)を意味している。これはイスラム伝播以前からある考え方。

Tirthadasar に行く)と Penguungan(山地) Kendeng で、Alas Roban の Pangeran Sigasari とジャワ海の Kyai Prabayasa から構成されている。

ジョグジャカルタ・サルタン国は宮殿の守護についてこれとはやや異なる信仰を持っている。南は南海の女王、西は Kahyangan Dlepih の Sang Hyang Pramoni、北は Dewi Sekar Kedhaton と Merapi 山の Kyia Sapu Jagad、東は Lawu 山の Sunan Lawu に守られているのである。(Triyoga, 1991)

実は、ジャワ社会の文化の宝庫の中で、昔から南の方角を尊び、南の方向に都をおくという伝統がある。例えば一番目の背景から高級官僚の官舎を南に配置することである。(一般的には事務所は官舎との間にある宮廷前広場の北側にある。)ジャワ人にとって南の方角は政治社会的と神秘的地理的に尊重される方位なのである。この慣習は少なくとも 10 世紀の Kediri 王国の時代には既に存在した。Kakaawin Sumanasantaka に戻ってみると、duwan(黎明?)と呼ばれるその地方で尊敬されている支配者や前述の支配者たちは市場か大広場の南側にいる。それゆえ、古代ジャワ時代以来、高級官僚と最高位の支配者の官舎を王宮前広場、あるいはそれに次ぐ社会的に重要な行動をとる場所の南側に配置しようとする考えがある。(Sedyawati, 1983/1984)

第二の背景、古代の地政学的観点に立つと、中華帝国のような大国はベトナムを除く東南アジア諸国の地域を纏めて「南洋」として見ていた。(Reid, 1992) 本件は、たしかに東南アジアは中国の南に位置することからだけではなく、特別に南方地域に手を伸ばすことができるために種々の大きな競争相手の存在という神秘的な印象を有している。その一生を決めるしばしば神秘的観点と比較される古代中国の思考において、「南洋」という語は、上記の地域がその行程が困難で最高に難しく、周到な準備が必要で最適な能力をもって進まなくてはならない大洋を越えて達することができるという意味を含んでいるのみではない。上記の印象で、第一に中華帝国である北方の大国はジャワへの想像はますます深まるのであった。それ故に、Kediri と Singosari 王国時代以降、政治経済のみならずいろいろな文化的影響を産んだ Pemalayu 遠征が誕生したのである。

上記に示したいくつかの現実は、古代の概念は南の方角に特別な印象を与え

ているという理解を我々に与えるのである。このことは、南海の女王を含む常識が古代マタラム時代にはすでにあったということを明確に示している。Demak 王国時代でも、彼らの祖先がアジア大陸あるいは北方から来たということを指し示す Ratu Sabrang Lor (Ratu Lasem)のみならず Pangeran Sabrang Lor という呼び名があったのである。

MT. Arifin(2008)によると、後日発生したものは、新マタラム時代において政治的性格を有する権力という重要性を構築することへと霊界が現実化することから、権力を伴った南海の女王に関する概念に移動と変化があったのである。南海の女王に対するマタラム王の信仰は、南海の女王が古代マタラム時代以来続いてきた霊界の王国と政治的概念を統合したものであるゆえに、より現実的な権力である王の地位と治世を強化するための政治的な重要ポイントになったのだった。

Ratu(女王)という語そのものは超能力の要素を意味する tu とその前の聖を指し示す接頭語の ra から成立している。この語から keratuan と同じ意味を持つ keraton(王宮)が派生した。このメスニズムをベースとして、ジャワの口語の ratu は datu 意味と同源であり、同様にして、王宮(keratin)の最も高位な場所を指し示す kedaton という語が派生したのである。この Ratu-datu という語は後日サンスクリット語に変わり、同様にジャワ碑文に利用されたのであった。後世になって、ratu の語の前に聖を意味する sang あるいは sang sri が置かれるようになった。(Yamin, 1962)

続けると、南海の女王の概念は、魂の主であるとする以外にジャワ西部の地域(Sigaluh 王国=現在の Megelang, Purwokerto, Tasik を地域をカバーしていた)の祖先であるというものであった。このような推論は、上記の地域から人材と政治経済、文化的な源を呼び寄せるための Penenbahan Senopati の戦略の一部を構成していたと思われる。このことは、Pajang 王朝に対立し、マタラム王朝を創建した時の Kedu(Magelang 県)から Ki Bocar や超能力者の存在に象徴される。上記の Penembahan Senopati と Ki Juru Mertani の戦略は、「実」に重きを置いた Sultan Pajang における Sunan Giri による Sultan Pajang 政策時期と、Panembahan Senopati が採用した「入れ物」重視と対照される。

上記の政策実施を比較してみると、最初の概念はジャワ人の考え方の主流で

ないことがわかる。それゆえ、政治的観点を除外すると、ジャワ人は論理より感情を優先させている社会を形成しているのであることが見える。心の奥にある温和さと尊厳の観点が、実行する比較検討と措置ごとに、さらにはこの問題が非常に広い観点に抵触するときは支配的になる。<78>既に存在する各々の現象において完成した知識と理解の段階に達するために、知恵と善悪の判断のやくわりは極めて限定的である。それゆえ、ジャワ人にとって可視の現象に対して、繊細な感覚を通じてのみ得られるより広く正しく大きな不可視の本質を知ることなのである。イスラム神秘主義者の眼鏡を通してみると、この件は、al-lathifah al insaniyyah、霊と魂を優先させることで心の目で見る練習を通じて真理にたどり着くという考え方なのである。それ故に、智慧の知識によるものは「神秘的」と名付けられるのであり、ジャワ人にとって、上記の「神秘的」と呼ばれるものは五感で感じられる世界と反対に現実なのである。さらに上記の現実の世界を貫通するものは次のどちらか一方である。一つ目は慣習儀礼や行為を行うことを通じて心眼を磨くこと、あるいはずっと以前においてこられた強制的な方法であり、ゆえに彼は不可視の状態に入り、この世で生きているときにはそれを理解するのである。

感覚と霊性の観点を最重要視する思考と理解の概念は、神秘的で合成された信仰の性格を持ち、智慧と脳と分別のような分析的性格を持たないジャワ人の思考方法となっている。この合成された思考方法は、人生とは明確な差異の認識の扉を開けない相互関連という連続してつながっている一体のものであるという理解にその方向を向けるのである。(Cassirer, 1979) それ故、ジャワ人の思考方法はより宇宙的でありこの世界は、al-dzahir wa al-bathin, al-ghayb wa al-syahadah(心身、不可視の物、可視の物)の性格の形、さらには al-dunya wa al-akhirah(世界の寿命とあの世)の経験を伴う認識の一体化としての無傷で統一されたものとして見られる。Syekh Siti Jenar の概念ではこの件は nang kene ro nang kono, padha ae (あちらもこちらも同じである)と理解されるのである。

これらすべてがジャワイスラムの特徴である考え方に導くのである。ゆえに、その理解は信仰の経験の結果であり、基礎を伴わない投機的なものではないのである。真実の理解とは al-kasyf、魂の衣服の全てを脱ぎ捨てることでアッラーの慈光を浴びて直接的な理解を得ること、を通じて得られるものである。Ibn Arabi は上

記の事柄から得られるものは知識と真理であると述べている。最初のことはしばしば霊的認識として理解されている神の知識を指し示し、二番目は非心理的な訓練を通じてのみ得ることができる「直接の知識」として理解されるものであり、それゆえ彼は神によって開かれた扉にすすむのである。(Chittick, 2001)

ジャワ神秘主義の分別でも理解できるスゥーフィズム(イスラム神秘主義)の概念においては三段階の真理がある。最初は、既存の情報を正しいとしようとすることだけに基づく一般人の哲学であり、これは makrifat al-iqrar と呼ばれているものである。第二は、makrifat al-khawas、直接的な体験に基づかない実世界のデータをいろいろと比較検討した結果に基づく哲学者と神学者のグループにおける哲学の種類である。第三は、心の底からの確信を与える(‘ayn al-yaqin)、すなわち心眼を覆うすべてのものを脱ぎ去ったあとに達する理解であり、神の知識の噴出へと直接誘う、makrifat al-haqiqiyyah (al-khawash al-khawash)である。この知識の性質では、al-fahmu (理解の段階)、al-ibrar (五感の中に例え話が登場する)、al-kalam (それゆえ神聖な表現がでてくる)という種々の側面がみられる。このことは、makrifat al-musyahadah (アッラーとの muwajahah と tawajjuh の精神的な経験を通じて心眼で直に体験したことに基づく理解)なのである。

Ranggawarsito は、上記の哲学て最高位に達した人は神と合一することができる、たとえば Krisna と Wisnu (Wisnumurti)あるいは Bima と Dewaruci (Bimasuci)のような nawungkridha[34]にあると言われると言っている。このような人は三つの世界(Triloka)、天界 alam ak-ilahiyah と al-malakutiya と霊界たちの地下世界、そして人間界である地上界(kamanungan)を支配したのである。〈80〉 Ranggawarsito の言葉にはこんなものがある。*Beda kang wus nawung kridha, tan susah mesu semadi, jumeneng Winumurti, triloka sampung kawengenku, wiyat tanpa wangenan, animba tirta jaladri, sinung wenang kaonang-ngonang kanangrat. Ila-ila ujar pajar, satriya ing Jodipati, kakekate luwih mulya. Warkundoro amengkoni, sarira ing Dewaruci, samangkin kang wus kasebat, Bimasuci Seh Senan, Rijalulghaib ping katri, tri buwana bias amor pamorira. (Soeloek Soeanalaja, 1941)*

[34] 感覚が繊細になり他人の考えを読み取れるようになること。

このように、上記の種々の概念で、ジャワの神話において支配者が nawunkridha あるいは makrifat al-musyahadah の段階に達することを望まれるので、彼は常に神と一緒に行動をとることができるとともに、南海の女王を第一とする地下世界の霊魂たちと連絡を取ることができなければならない。この関係は、神によって創造された種々の現実世界の間の神秘的な平衡の一つを形づくっている。されば故、より強力な能力は人間界と霊界との合一した情報に波及するのである。

本件に関連して、Sultan Hamengkubuwono IX は、南海の女王(Kanjeng Ratu Kidul Atmakusumah)との関係について、その神秘体験からこう述べている。

> 南海の女王様についてここに述べる。数日間の断食など決められた方法を行った後、女王を見かけたことがある。月が上がる時南海の女王は非常に美しい若い女性に見え、その反対に月が没する時はさらに年を取った女性として映った。

Sultan Hamengkubuwono IX が述べた上記の神秘体験は事実上個人的な体験でありこれを知っている人は多くない。しかしながら実際には、ジャワ人たちは彼らの王が、Sri Sultan Hamengku Bowono X の戴冠時とはいえ自分の持つ超能力で南海の女王と交信することができ、臨席者の一部は南海の女王が臨席したと信じている。(Moerywati, t.t:7) 緑のクバヤをまといきわめて美しい女性に「見える」南海の女王がこの新しい王に寄り添っていたともいわれている。〈81〉

南海の女王に出会うずっと前から神秘的な修行を行っていた Sultan Hamengkubuwono IX の事実に関していうと、上に述べたように神秘的な知識を得る段階にいたというともいえるのである。

一般的に生じたように、より高い権威を持つ人に会おうとする人は決まったステップを踏む必要がある。同様に、より高度な超能力を有する段階にあり、南海の女王のような超自然的能力を有すると理解されている霊に会いたいと思っている王とジャワ人は、決まった修行、例えば断食や食事制限、瞑想などを行わねばならない。ジャワ人は中身より入れ物を重視するゆえに、「入れ物」が十分に強くなった時に希望する「中身」を入れることができると考える。瞑想のような修行で上記の人達は自分で熱い波と呼ばれる力を出すことができるのである。この熱い波は瞑

想を行った期間により、それが長ければより強くなるのであるがゆえに、可視世界のみならず不可視世界の自然に対して特定の影響を与えることができるのである。この兆候こそが Panembahan Senopati が南海岸で瞑想を行って南海を湧き立たせたのである。(Sudibjo, 1980: 103-104)

それゆえに、霊界の魂としての南海の女王に置かれた主従関係(王への霊の随行あるいは霊界からの好意で援助される随行)という形をとることがジャワの王の権威に関する財産の中での南海の女王の概念としてより確かになるのである。支配者というものは、地上におけるカリフの業務を進めるために選択された人たち、すなわち望まれた人たち、がアッラーから得た仕事である al-malaikat al-hafadzh (守護霊)の一群を含むイスラム神秘的概念での南海の女王からの随行を王が確実に得たとき、王の仕事と国家の治安を支配者は進めることができるようになる。確かに、現在のシステムにおいて個人の能力と知識レベル、その神秘的な能力を十分に受け入れるレベルに達することは気われて稀であるゆえに、ジャワの王や指導者のすべてが上記のジャワ(インドネシア)の指導者としての諸条件を推進できるとは限らないことが問題になってくることは明らかである。。ゆえに、このインドネシア共和国における支配者になる必須条件のため、ジャワイスラム神秘主義の概念で求められるようないろいろな神秘主義的機能と underaning ngelmu を最適化するための能力に関する問題が最終的には極めて重要かつ困難な問題になるのである、

それゆえに、その後、ジャワと「列島」は、過ぎ去った時代のように進歩と平穏と繁栄へ向かうことに対するいろいろな大きな障害を現在でも実感しており、これは単に南海の女王が「すでに効力をなくした」とか「神の恩恵」という要素によるものではない。その最大の影響は我々自身の個人個人にあり、より詳しく言うと、良いボスになれる条件満足し説明する underaning ngelmu[35]に従う行動と方法を取りたがらない役人と事業者、指導者なのである。

翻訳終了 2017/11/09

[35] Sawego Hening Underaning ilmu：The essence of science. Dwelt Ares The center of acknowledge